



ツリバナ（吊花）〈ニシキギ科・ニシキギ属〉

山地の林に生える落葉低木。北海道から九州に自生する。葉身は 5~12 釐の卵形または長楕円形で細かい鋸歯を持ち葉先が尖る。5~6 月に 5 枚の花びらを持った直径 8 釐ほどの黄緑や淡い紫色をした花を吊り下げる。吊り下がる姿が優雅で風情があり、名はこの姿に由来する。実は秋に紅色に熟すと橙赤色の皮（仮種皮）を持った種が顔を出す。近似種のマユミの花びらは 4 枚。実も 4 つに割れ、同じく橙赤色の仮種皮が覗く。吊り下がる姿が花も実も愛らしく独特の趣を持つので庭園や茶庭、庭木として用いられる。・・・梅雨の晴れ間は、早まぶしい夏の日差し。深い緑に覆われた緑滴る山々には、ネムノキや、クマノミズキ、アカメガシワが賑やかに花を装う。ツリバナもいつの間にか若い緑の果実に。待ち遠しい梅雨明け後は、自然界が最も生き生きと活躍する夏の到来。エネルギーに満ち満ちた季節、マスクは暑かろうが、元気に元気に過ごしたい。

～佐伯区湯来町 2020・6月～